

名寄市所有の特定既存耐震不適格建築物と耐震診断結果(建築物の耐震改修の促進に関する法律第14条に示される建築物)

NO	建築物名称	位置	用途	建築年	法7条 診断義務	耐震診断方法名称	安全性評価	耐震改修の予定	備考
1	智恵文小学校	名寄市字智恵文12線	小学校	昭和51年	無し				
2	名寄中学校	名寄市字豊栄101-1	中学校	昭和52年	有	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	I Is/Is0=0.2 CTU・SD=0.2	未定	
3	名寄東中学校	名寄市西2条北8丁目	中学校	昭和56年	有	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	II Is/Is0=0.6 CTU・SD=0.45	未定	
4	名寄市スポーツセンター	名寄市西7条南12丁目	体育館	昭和49年	無し	「屋内運動場等の耐震性能診断基準」(平成18年版)	I Is=0.1 q=0.3	未定	
5	名寄市立図書館	名寄市大通2丁目	図書館	昭和45年	無し				
6	名寄市役所名寄庁舎	名寄市大通南1丁目	庁舎	昭和45年	無し	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版)	I Is/Is0=0.4 CT・SD=0.3	未定	
7	名寄市役所風連庁舎	名寄市風連町西町196-1	庁舎	昭和55年	無し	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	I Is/Is0=0.4 CTU・SD=0.3	未定	

構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

- I 地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
- II 地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
- III 地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

※地震とは震度6強から7程度の大規模地震を示す。

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の区分		
	I	II	III
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版)	$Is/Iso < 0.5$ 又は $CT \cdot SD < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/Iso$ かつ $0.3 \leq CT \cdot SD \leq 1.25$ $1.25 < CT \cdot SD$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$Is/Iso < 0.5$ 又は $CTU \cdot SD < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/Iso$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq CTU \cdot SD$
「屋内運動場等の耐震性能診断基準」(平成18年版)	$Is < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.7 \leq Is$ かつ $1.0 \leq q$

※いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生じるおそれは少なく、倒壊する恐れはないとされています。

記号の説明

記号	名称	説明
Is	構造耐震指標	建物の耐震性能を表した指標。 各階、各方向(X、Y)毎に建物の強度や粘り強さ、形状、経年変化などを考慮して算出。
Iso	構造耐震判定指標	想定した地震に対して必要とされる建物の耐震性能を表す指標(基準値)。
CT・SD CTU・SD	累積強度指標(CT) 終局限界における累積強度指標(CTU) 形状指標(SD)	建物の強度を表した指標。 各階、各方向(X、Y)毎に算出し、粘り強さだけでなく一定の強度があることを確認。
q	保有水平耐力に係わる指標	